



腸内フローラ 検査報告書





腸をみればからだがわかる 腸内フローラ検査報告書



ID:

飼い主名	北浜 太郎	様
ペットのお名前	麻呂	くん
犬種/猫種	柴犬	
年齢	1 歳	
採便日	2023年2月2日	

・ Wankinso（ワンキンソー）では、遺伝子解析技術を応用し、腸内細菌のもつDNAを解析しています。これにより、ワンちゃんがもつ腸内細菌の種類や割合を分析しています。

・ 本サービスは、腸内細菌の現状について知っていただくものです。病気の診断を目的としたものではありません。

・ 当社では、個体を識別できない状態に加工したデータ、および統計解析後のデータを第三者に提供する場合があります。

・ 統計解析し、個体が識別できない状態のデータを、学会や各種メディア等で発表する場合があります。

・ アンケート回答と腸内細菌叢情報を合わせて分析することで、今後のサービス改良に向けた研究を行います。





腸をみればからだがわかる 腸内フローラ検査報告書



ID: 麻呂 くん

総合評価

麻呂 くん

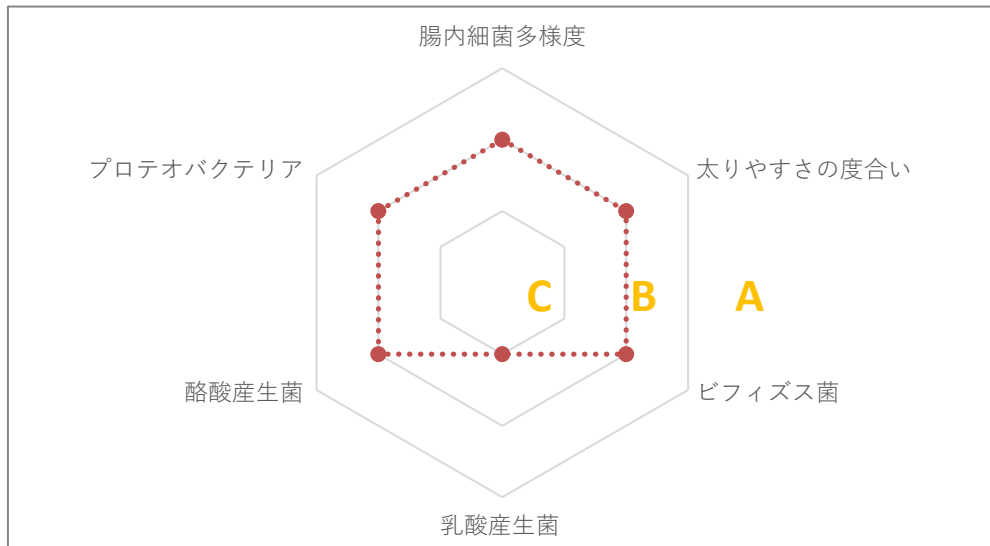
総合評価

B

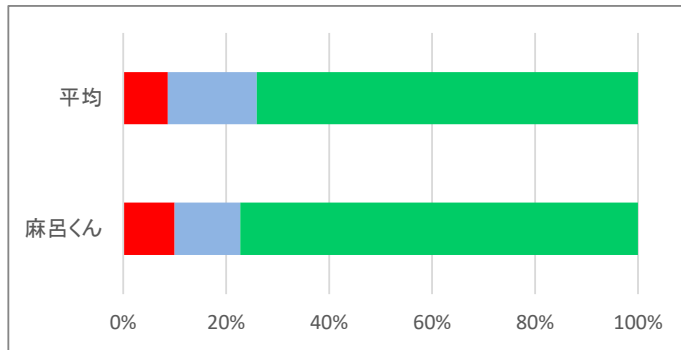
腸内細菌多様度...	B
太りやすさの度合い...	B
ビフィズス菌...	B
乳酸産生菌...	C
酪酸産生菌...	B
プロテオバクテリア...	B

判定基準 良い : A 普通 : B 悪い : C

フローチャート



腸内細菌割合/有用菌・有害菌・バランス菌



有益菌 9.95%
 有害菌 12.77%
 日和見菌 77.28%

ワンちゃんネコちゃんに良い働きをする有益菌、悪い影響を及ぼす有害菌、バランス菌の割合を表しています

有益菌・・・ワンちゃんネコちゃんのお腹の調子を整える菌

有害菌・・・多いとワンちゃんネコちゃんのお腹の調子が悪くなることがあります

日和見菌・・・有益菌が多い時に有益に働き、有害菌が多いと有害な作用をする菌

腸内細菌叢多様度 **B** 判定

4.78

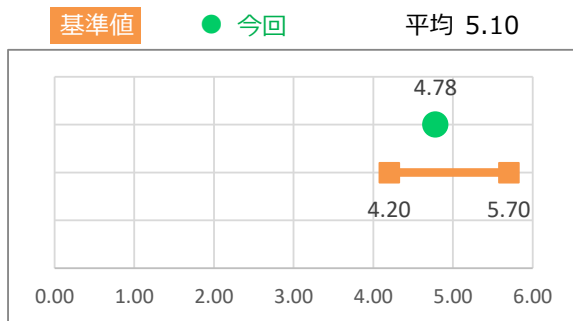
以上



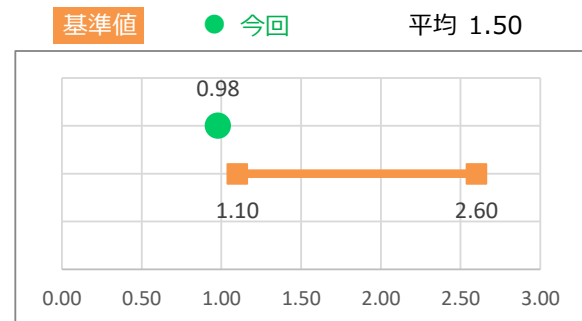
太りやすさの度合い **B** 判定

0.98

以上



腸内細菌の種類が平均的でした。腸内細菌の種類が低下すると、環境の変化に適応できなくなり下痢や嘔吐などの消化器症状を起こしやすくなります。より種類を増やしていくためにも、栄養バランスが良いフードと、有益菌の餌となるオリゴ糖などの腸内細菌にとって有益なプレバイオティクスを与えていきましょう。



肥満の度合いが平均より少ない数値をとっていました。肥満の度合いを調整するためにも、バランスの良いフードを与えましょう。合わせて適度な運動と体重のチェックを心がけましょう。

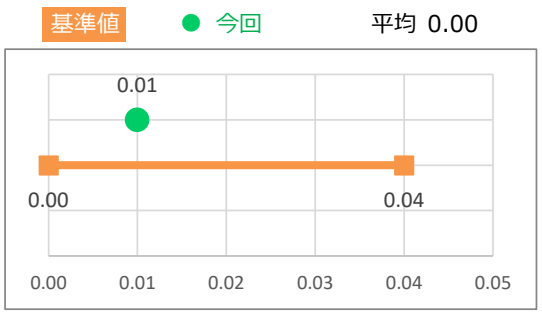
for times
 お家で簡単！
 はじめましょう、腸内デザイン

腸をみればからだがわかる 腸内フローラ検査報告書



ビフィズス菌 **B** 判定

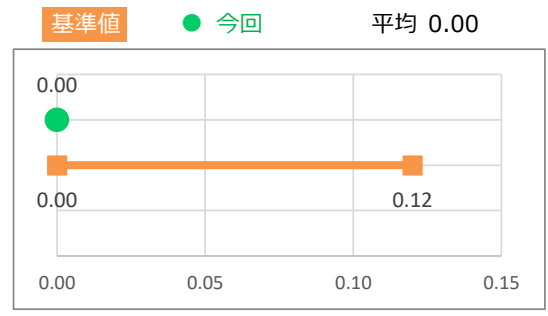
0.01 %



ビフィズス菌が平均的な数値でした。正常なワンちゃんでもあまり見られない菌ですが、オリゴ糖を摂取することで増加が期待できます。

乳酸産生菌 **C** 判定

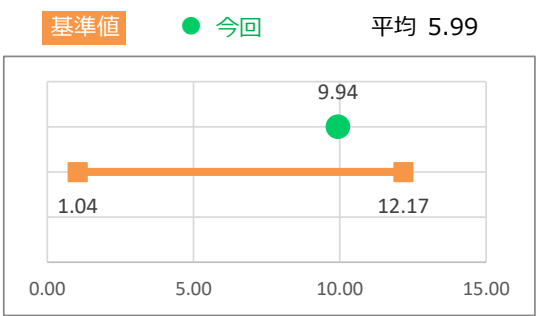
0.00 %



乳酸産生菌が平均よりも低い数値でした。乳酸産生菌があることでお腹の環境が良くなるので、乳酸菌を直接摂取するか、オリゴ糖などのプレバイオティクスを摂取することで乳酸産生菌の増加が期待できます。

酪酸産生菌 **B** 判定

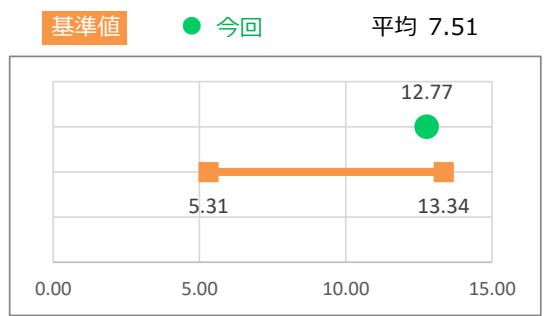
9.94 %



酪酸産生菌の数値が平均的な数値でした。酪酸産生菌が低下すると、病原菌が増殖しやすくなり、腸炎や皮膚炎のリスクも上がります。維持するためにも酪酸菌やグアーガムなどのプレバイオティクスが添加してあるフードを給与すると良いでしょう。

プロテオバクテリア **B** 判定

12.77 %



有害菌の一種であるプロテオバクテリアが平均的な数値でした。プロテオバクテリアが増加すると、嘔吐や下痢といった症状を起こしやすくなります。増殖を抑えるためにも栄養バランスが良い食物繊維を含んだフードを与えましょう。

健康関連する細菌

		今回(%)	平均(%)
ラクトバチルス	乳酸産生菌の代表格の菌です。乳酸の他に酢酸を産生し、有害菌の増殖を抑制します。	0.00	1.62
フィーカリバクテリウム	酪酸産生菌の代表格であり、免疫機能の調整で重要な役割を担っています。長寿に関わる腸内細菌として近年注目されています。	3.45	2.35
ブラウティア	酪酸産生菌の1種であり、腸内環境の維持に関わりがある細菌です。	5.20	8.79
ルミノコッカス	酪酸産生菌の1種です。犬の炎症性腸疾患では、少ないという報告があります。	0.02	0.11
クロストリジウム	C.perfringensやC.difficileなどの一部有害な細菌がありますが、クロストリジウム属の多くは酪酸を産生し、良い影響を与える細菌と考えられています。	6.29	3.90

短鎖脂肪酸とは

短鎖脂肪酸とは、脂肪酸のうち炭素の数が6個以下のものを指します。短鎖脂肪酸には、酢酸、プロピオン酸、酪酸が含まれます。

食物繊維やオリゴ糖を腸内細菌が発酵することで産生されます。短鎖脂肪酸は、大腸粘膜で吸収され、血流に乗り肝臓、筋肉、腎臓などの組織に運ばれエネルギーなどに利用されます。また、短鎖脂肪酸は、腸内を酸性にし、有害菌の増殖を防ぐ、腸の動きを促す、免疫システムの調整など様々な作用があります。



疾患に関連する細菌

		今回(%)	平均(%)
ストレプトコッカス	一部、乳酸を産生する種類もありますが、人においては様々な疾患の原因菌とされています。	0.00	4.99
ポルフィロモナス	歯周病に関連する細菌が含まれています。ヒトにおける報告では歯周病だけでなく、様々な疾患に関連していると言われています。	0.00	0.16
カンピロバクター	腸炎や食中毒の原因となる細菌として知られています。	3.98	0.24

腸内フローラと疾患の関連

ヒトの医学領域では、腸内細菌フローラをはじめとした腸内環境の異常が、腸炎、糖尿病、肥満、大腸がん、うつ病など様々な疾患に関連していると報告されています。また、近年の研究ではイヌとネコも腸内細菌フローラと様々な疾患が関連していると報告されています。

腸内細菌フローラと関連している疾患として、腸炎だけでなく、犬では膵外分泌不全、肥満、脳炎、猫では糖尿病との関連性が報告されています。

